

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2192700033 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人まめなかな | | |
| 事業所名 | グループホームまめなかな | | |
| 所在地 | 岐阜県高山市赤保木町1059番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和7年9月2日 | 評価結果市町村受理日 | 令和7年11月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Ijvsvocd=2192700033-00&ServiceCd=320&Ivne=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | 令和7年9月16日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である「たとえ年をとって障害や認知症になったとしても、最後まで地域の中で生き生きと」を基に25年間認知の介護を行ってきました。今までいろんなお年寄りに接してきました。今でも思い出される方が沢山いらっしゃいます。たくさんのかたを見送ってきましたし、家庭生活が出来るようになった方もいらっしゃいます。これらの経験を基に 認知症の方1人1人に向き合い、穏やかに過ごしていただけるよう毎日の介護にあたっております。認知の程度が様々です。また今まで暮らしてきた生活も様々です。それを生かしながら、介護が出来る様にスタッフみんなが毎日勉強しつつ、利用者様に教えられながら共に生活しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな地にあり、同一法人が運営する小規模多機能型居宅介護や高齢者向けシェアハウスが隣接している。現在は休止中だが、地域住民が集うことのできる「まめなカフェ」も併設されている。地元の食材を使った食事は、職員による手作りのものばかりである。利用者の多くは日中をフロアで過ごし、職員による絵本の読み聞かせを楽しんだり、好きな塗り絵をするなど、それぞれの楽しみを見い出しながら支援している。看取りに関しては、医師や訪問看護師の協力のもとで多くの利用者を看取ってきた事例もあり、家族から感謝されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|--|
| 43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある ○ 3. たまに 4. ほとんどない |
| 45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を事務所に提示し、小規模多機能さくらそうと共用し実践している。 | 理念は、職員が日々の業務の中で、常に理念を意識をすることができるよう、玄関や事務所など、目につく場所に掲示している。また、新人研修の一環として、理念を共通認識できるよう機会を作り、伝えながら実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ流行依頼地域との交流は出来ていない。また天候が悪く散歩などで外へ出られない事が続いている。これからは天候を見ながら外で過ごす時間を多くしたい。散歩などに出かけると地域の方から声をかけて頂く。 | 地域の祭り際には、獅子舞が事業所を訪れており、利用者も近隣住民とともに獅子舞を楽しんでいる。感染予防対策をした上で、天候をみながら散歩に出かけ、近隣住民と挨拶を交わしている。 | |
| 3 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議で家族さんや地域の方にグループホームを知っていただく。 | 運営推進会議は隔月で開催している。今年度は、避難訓練などの行事と一緒にいき、会議メンバーも訓練に参加している。会議の案内や会議後の議事録はすべての家族に送付している。 | 会議は地域に理解をしてもらう大切な機会である反面、参加者が少ないことを課題と感じている。開催日程の調整や新たな参加者の促しなど、工夫されることに期待したい。 |
| 4 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | グループ協議会の飛騨支部で高年介護課と話し合いを行う事により、より分かっていたよう努める。 | 法人代表は、市役所から「認知症相談員」としての委託を受け、地域住民からの相談を受けている。困難事例についての受け入れや、様々な相談を行政職員と行える協力関係ができている。運営推進会議の出席もある。 | |
| 5 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ベットからの転倒のリスクがある方に対し、家族からの同意を得て、夜間だけベット柵を行っている。月1回のミーティングでの見直しを行っている。 | 身体拘束についての指針を設け、ミーティングや研修で学んでいる。やむを得ず拘束を行う場合には、事前に家族の同意を得ている。法人として委員会を設置し、身体拘束の定義などについても学んでいる。 | |
| 6 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ミーティングのたびに、学習をし、スタッフ全員に自覚をもってもらう。軽度の虐待かと思われる段階で供用をし防止に努めている。 | 虐待防止委員会は未設置であるが、今後、設置予定としている。毎月のミーティングにおいて、身体拘束と併せて虐待に関する研修を取り入れている。法人としての指針もあり、新人研修においては虐待防止をテーマに学んでいる。 | |

岐阜県 グループホームまめなかな

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ミーティングの時などに、少しずつ学習をしている | | |
| 8 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時のみでなく、必要時説明を行い、理解を深めている。 | | |
| 9 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族への連絡を密にし、意見を聞き介護に取り入れている。 | 毎月、日々の様子と写真を載せた手紙を家族に送付している。3ヶ月に1度、担当職員から手書きの手紙も送っている。面会制限がある中でも、家族が急に来訪される事もあったが、窓越しでの面会を支援するなど、柔軟に対応している。 | |
| 10 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のミーティングの時や、毎日の中で必要時意見を聞き運営に反映させるようにしている。 | 代表は、直接、職員の意見を聞けるよう、平日は毎日シフトに入っている。車椅子のままでも、口腔ケアが行える洗面台に交換するなど、ハード面での改善も、職員の意見を反映させた結果である。 | |
| 11 | (9) | ○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている | 管理者は、職員個人の能力に応じ主任制度を設け、意見を言いやすくしている。それを管理者に伝え運営に反映させている。 | 有給休暇や希望休、産休などの休暇制度や、休憩場所の確保など、職員のワークライフバランスに配慮しながら、環境を整えている。外国人技能実習生には住居の提供も行っている。 | |
| 12 | (10) | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ミーティングの際には各自の状況・拘束・虐待・認知症などについて必ず学習会を行っている。認知症初任者・初任者研修・現任研修などの参加を促している。書籍も買って来た。 | 市などから提供された研修情報などは、職員に回覧し、自発的な学びを促している。参加する場合は業務として参加しやすいよう配慮している。Eラーニングなどを使った学びの機会も活用している。 | |

岐阜県 グループホームまめなかな

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | グループホーム協議会にて現状と課題を出し合い解決の方向に持って行く。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 14 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | スタッフは常に寄り添い、共に過ごすことが出来る様工夫している。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 15 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様と寄り添う事により利用者様のニーズを知り介護に生かしている。 | 職員は、利用者と話す時は、常に目線を合わせて笑顔で話すよう心がけ、日々の生活支援の中で利用者の思いや意向を把握している。把握した情報は、朝礼やミーティングにて共有をしている。 | |
| 16 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプランを共有し、それに基づきスタッフが毎日の介護に生かしている。ケアプランに従いモニタリングを行い日々の介護にいかしている。 | ケアプランは、職員、医師や訪問看護師、家族の意見を集約した上で作成している。本人が楽しみとしている塗り絵なども支援計画に組み入れ、個別性の高いプラン作りを行なっている。 | |
| 17 | (13) | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の申し送りの際、介護上の問題点やその方に対するより良い介護が出来る様情報共有を行い、実践している。日々状況が変わるので、その都度話し合いを行い柔軟な対応を行っている。 | タブレット端末を活用して日々の記録を入力している。ヒヤリハットは気づいたときにすぐメモができるように事務所棚横に設置し、頻りに記載しながら情報を共有している。 | |
| 18 | (14) | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 介護度1～5までの方がいらっしゃるので、そのかたに応じた介護を行っている。 | 理美容師の訪問や、家族が対応できない場合の介護タクシーの手配など、個別のニーズに対応している。新たに自費サービスの導入も取り入れ、より柔軟に対応ができるように取り組んでいる。 | |

岐阜県 グループホームまめなかな

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ下で地域の方や家族様と自由に触れ合うことは難しい。だがこの町内には防災士の方が3名いらっしゃるの事なので今後お願いしていきたい。 | | |
| 20 | (15) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 在宅医療の提携を結んでおり、訪問診療をおこなっていただいているのと、緊急時の対応を電話連絡も含め行っている。 | 入居時に協力医または従来のかかりつけ医を選択することができる事を説明している。協力医は週1度往診があり、訪問看護師も訪れている。他科への受診が必要な場合は、原則、家族対応を依頼している。看取り時には協力医による24時間対応がある。 | |
| 21 | (16) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 病院との連絡を密にし利用者様が早期に退院できる体制を整えている。 | 入院時は、医療機関に日々の様子をまとめたサマリーを提供している。退院時は、医療機関の設定した退院カンファレンスに、事業所関係者が参加し、利用者がスムーズに日常生活を再開できるよう、受け入れ態勢を整えている。 | |
| 22 | (17) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りの体制を整え、訪問看護事業所との連携を密にしている。利用者様、ご家族様が安心して最後を迎えられるようにスタッフで看取りの介護について話し合いながら取り組んでいる。 | 看取り支援については、本人や家族に説明している。意向を確認し書面で残している。事業再開後、看取った事例がある。看取り後はカンファレンスを行い「看取り介護終了カンファレンス報告書」を作成し、職員間で共有している。 | |
| 23 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時は訪問看護ステーションとの契約により報告をし、指示をあおぐ。定期のミーティングなどで初期対応は教育している。 | | |
| 24 | (18) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練で消防署から来ていただき対応を訓練している。だが、認知症の方々が避難していかなければならず課題は大きい。 | 法人としてのBCPを作成している。避難訓練では利用者も駐車場までの避難を実施し、災害が発生したときの混乱が少なくなるよう声かけしながら取り組んでいる。事務所内の棚等の転倒防止措置を行なっている。今後、地域の防災士との連携を考えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 25 | (19) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 介護度が1～5までとばらばらであり、認知度も高い。その方に寄り添い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に注意しながら利用者様の尊厳を重視した介護に心がけている。 | 利用者の尊厳を守るため、職員は常に敬意を払い自尊心を傷つけない接し方を心がけている。管理者は職員が不適切な言葉遣いや対応をしていた場合、すぐに注意しミーティング時にも話し合っている。 | |
| 26 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 1人1人のニーズが違うので、理解の難しい方でもコミュニケーションを密にし、その方に応じたやり方で自己決定が出来る様心掛けている。 | | |
| 27 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様が今日1日どのように過ごしたいかを聞き本人の希望・ペースを優先し支援している。 | | |
| 28 | (20) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節や行事を食事の中に取り入れ献立の中に取り入れている。地元の食材や季節野菜などを取り入れつつ昔の話をもり入れながら楽しんでいただく。 | 地元の店を活用し、食材や野菜等を仕入れている。朴葉寿司や赤飯など、季節やイベントに応じた献立を作成し、食事を提供している。おやつレクとして、お好み焼きやたこ焼き作りなどを利用者と一緒に楽しむこともある。 | |
| 29 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 皆様は殆ど全量摂取される。食欲のない時など観察を密にし他の補助食品などで対応している。 | | |
| 30 | (21) | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後利用者さんに合わせた方法で口腔ケアを行っている。 | フロア内にある洗面台で、口腔ケアを実施している。自ら行うことができる利用者は、見守りで支援し、声かけや介助が必要な場合は、職員が手伝っている。歯ブラシの洗浄は、毎週、職員が行っている。 | |

岐阜県 グループホームまめなかな

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 自分でトイレに行ける方やおむつ対応の方などその方に応じた対応方法を毎日のミーティングで話して支援の方向を見出している。 | | |
| 32 | | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 自分一人で入浴が出来る人がいらっしやらないのでスタッフが決めている。 | | |
| 33 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 睡眠習慣はその方によってさまざまであるのでそれに応じた時間帯を見ながら支援している。 | | |
| 34 | (22) | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 体調の変化などがあった時には医師訪問看護に相談している。そのことをスタッフみんなでも共有し対応している。 | 薬の管理は薬剤師が行っており、医師とも連携しながら服薬支援を行っている。薬材情報は事務所にあり、職員がいつでも確認できる。粉剤に関しても薬剤師に相談している。今までに誤薬はない。 | |
| 35 | (23) | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者様とコミュニケーションを図りながら毎日の生活の中に軽作業(洗濯たたみや食器拭きなど)を行っていただく。花の水やりや出来る範囲で行ってもらっている。みんなと一緒に好み焼き屋たこ焼き作り等で楽しんでもらっている。 | 入居以前の楽しみごとである読書やTV鑑賞、花の水やり、塗り絵を楽しむなど、好きなことを継続できるよう支援している。携帯電話で家族と話すことを、唯一の楽しみとしている利用者もある。 | |
| 36 | (24) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ流行以来地域との交流は出来ていない。また天候が悪く散歩などで外へ出られない事が続いている。これからは天候を見ながら外で過ごす時間を多くしたい。花見や紅葉見物など車の中からも良いからドライブを兼ねてたのしんでいただく。 | コロナ禍以降、まだ、地域との交流も難しい状況にある。以前は駐車場でテーブルを広げ、食事を行うなどしていたが、最近では行なっていない。地域の状況やタイミングを見ながら、散歩をしたり、花見の季節にドライブへ行くなど、外出機会を確保している。 | コロナ感染症対策として、外出を自粛している。今後は、周辺の状況を見ながら、気分転換や下肢筋力低下防止のため、時には外でお茶を飲んだり、畑を眺めるなど、外気浴を兼ねた支援の工夫に期待したい。 |

岐阜県 グループホームまめなかな

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金は所持していない。必要なものがあつたら施設で建て替えている。 | | |
| 38 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯を持ってる方は部屋で話されている。手紙は自分で書かれている。 | | |
| 39 | (25) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の場所は利用者様が使いやすい様に心掛けている。壁面空間など季節の飾り物などは皆さんに作っていただき掲示している。今年は暑かったので室温に注意がより大切でした。 | 利用者の手作り作品を壁面に飾っている。利用者が居心地よく過ごせるよう温湿度管理を適切に行なっている。日中はリビングで過ごす利用者が多く、好きな場所で安心して過ごせるよう家具を配置している。車椅子用トイレは、出入りがしやすいよう、カーテンを付けている。 | |
| 40 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者様の意見を聞きながら、席替えをしつつ居場所づくりをし、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。 | | |
| 41 | | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の意向を聞きご家族様と相談し、馴染みの物を持ってきていただいたりしながら居室での時間を過ごしていただいている。 | | |
| 42 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 軽作業を行っていただくなど、出来ることを見出し少しでも楽しく自立し毎日の生活が出来る様に心掛けている。又その方に応じ、案内プレートを置くなどし、出来るだけ自立した生活が送れるよう支援している。 | | |